


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

| | | | | |
|-----------|---|------|---------|---|
| 申請者氏名 | 村田 智己 | 会員番号 | 0036032 |  |
| 申請者の所属・職名 | 北海道大学 遺伝子病制御研究所 免疫生物分野 | | | |
| 出席会議名 | American Transplant Congress 2019 | | | |
| 発表論文タイトル | Analysis and Regulation of Immune Reaction in the Transplantation from MHC Homozygous Donors to Heterozygous Recipients with Minor Antigen Mismatches | | | |

実施結果: この度は 2019 年 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award (前期分) に選出していただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ、選考員の先生方、私を推薦していただきました清野研一郎先生に心より御礼申し上げます。

私は 6 月 1-4 日にアメリカのボストンで開催された American Transplant Congress (ATC) 2019 に参加しました。ATC は学会名の通り、毎年アメリカで開催される移植医療に関連する国際学会です。連日、朝早くから口頭発表が行われ、夜に行われるポスター発表で 1 日が終わるというスケジュールでした。会場内の様々な場所で発表が行われていましたが、臨床研究の演題のみならず基礎研究からの演題も多く見られました。毎朝、学会参加者のほとんどが出席する plenary session が開かれ 4 演題発表がありました。どの日も必ず臨床研究と基礎研究からそれぞれ 2 演題ずつ発表がありました。臓器の保存法に関する研究や自然免疫系による拒絶反応など幅広い内容であり、とても興味深く重要な研究発表ばかりでした。臨床研究に関する発表では膨大な臨床データをもとにした発表が多く、各国の移植医療の現状について学ばせていただきました。基礎研究の発表は移植免疫に関連する演題が口演・ポスター発表共によく見られ、移植免疫に関する研究が日本のみならず国際的に重要な位置づけであることが実感を持って分かりました。さらに、拒絶反応を制御するために行われている研究は自分が想像していたよりも遥かに多く、様々なアプローチがなされていることも分かりました。私自身も移植免疫による拒絶反応の制御に関する研究テーマに取り組んでおりますが、世界的に解決すべき重要な課題のひとつに取り組んでいるという意識を持つようになりました。

期間中、毎日 300 前後のポスターの演題があり、期間全体では 1200 以上の演題がありました。私は、学会の 5 日目にあたる 6/4 に「Analysis and Regulation of Immune Reaction in the Transplantation from MHC Homozygous Donors to Heterozygous Recipients with Minor Antigen Mismatches」という演題で参加しました。免疫寛容誘導法による拒絶反応制御法の開発に関する研究を Tolerance/Immune Deviation という区分でポスター発表して参りました。ポスター発表の時間は 1 時間設けられていましたが、会場に用意されていた軽食をつまみながら近くの関連する領域の参加者同士で自由にディスカッションするという雰囲気でした。私自身は、ポスター発表を聞きに伺い、研究内容や重要な論文について紹介していただき、次に自分の研究を紹介し、意見交換をしてポスター発表の時間を過ごしました。発表した区分やその周辺では、自分とはまた異なった方法による免疫寛容誘導法の開発に関する発表や、免疫寛容誘導後のレシビエント T 細胞がドナーに対する反応性を失うメカニズム解析に関する演題が中心でした。実際に私が頂いた質問もこれらに関連するものがほとんどでした。他にも制御性 T 細胞や制御性 B 細胞のさらに詳細なサブセットの免疫寛容への寄与に関する質問を頂いたり、免疫寛容誘導後の T 細胞の転写因子等の遺伝子発現に関する論文を紹介して頂いたりしました。私の発表にとっても興味を持って聞いてくださった先生とお互いの研究内容を紹介しあう中で、今回の発表内容が論文になったら教え合おうということで連絡先を交換しました。現在は少しでもいい論文にしようとする日々の実験に励んでおります。

私は今回が初めての国際学会参加であったため不安な部分もありましたが、移植医療の最先端について知ることができ、とても有意義な 4 日間になりました。今回の Tadimitsu Kishimoto International Travel Award 受賞と ATC 参加の経験を糧により一層日々の研究活動に邁進し、免疫学そして移植医療の発展へ少しでも貢献できますよう尽力して参りたいと思います。重ねてではございますが、このような大変貴重なご機会を賜り誠にありがとうございました。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。